



2013
7月号
No.232

大津島(平成25年 6月1日現在)
人口 360人(男155人 女205人)
高齢化率 71.7%

第二回 大津島出身者意見交換会

「ひろしのつばやきを読んで、初めて島の歴史を知り、改めて島の良さを感じた。故郷のために出来る事をしたいと思った。私達は島で育ったが、私達の子供達は、島で育っていない。盆踊りの口説きや、伝統芸能など、次世代への文化の継承が必要だと感じた。」今回の会議での、出身者石田博文さんの言葉です。

五月五日、大津島海の郷で、「第二回出身者の意見交換会」が行われました。十七名の出身者の方が参加し、地元からは、安達壽富さん、屋野廣志さんが参加しました。

参加者の多くは、昨年ランナーとしてポテトマラソンに参加された方、ボランティアスタッフとして、大会に参加された方でした。「事前打合せをもっとした方が良い」「人員配置は、改善が必要」「地域ごとに応援合戦をしても良いと思う」など、大会に携わったからこそ分かる貴重な意見が出ました。



【当日の様子】
・挨拶と自己紹介 10:00~10:20
・ポテトマラソン提案会 10:20~10:50
・意見交換会 10:50~12:30
・懇親会 12:30~16:00

出身者インタビュー Part3



野間 久生さん
川尾出身。遠石在住
昭和45年 大津島中学校卒業
バレ一部OB会

○第二回意見交換会を終えた感想は？
話し合いではポテトマラソンの反省や改善点を中心になってしまいい、今後の活動内容については、今一歩踏み出せなかったと思います。

○今後については？
まずは、出身者同士や、出身者と地元の方々とのつながりを大切にするためのネットワーク作りが必要だと思います。地区や島の行事に参加し、皆で汗を流し美味しいビールを飲みながら、お話ができれば最高です。

結果や成果を求めるとはなく、楽しく取り組める事が重要だと思います。

○八月十五日はどんな会に？
次回は意見交換会の名称等の詳細を決めたいと考えています。ちようどお盆です、帰省中の皆さんにも多数ご参加頂き、それぞれのご意見もお聞かせ頂きたいと思っています。

是非、ご参加くださいますようお願いいたします。

○最後に出身者へのメッセージを！
しばらく故郷へ帰省されていない方もおられるかと思いますが、本浦に宿泊施設(海の郷)も新設されています。是非お帰りをお待ちしております！

次回の出身者意見交換会は、八月十五日(木)を予定しています。

島母さんの お料理教室

竹の子と春雨の中華風煮物

<材料> 2人前
茹で竹の子…150g
春雨…乾 20g
豚肩ロース薄切り…50g
しいたけ…4枚
干しエビ…10g
めろ湯…1/3カップ
しょうが…10g
赤唐辛子…1/2
サラダ油…大1
水…1と1/2カップ
顆粒鶏がらだし…小1/2
紹興酒又は酒…大1
しょうゆ…小1
砂糖…小1
しょうゆ…小1
片栗粉…小1/2



具たくさん中華で、
夏を元気に乗り切りましょう！

<作り方>
①干しエビは分量のめろ湯につけて戻す。汁けをきり、戻し汁はとっておく。
②竹の子は4cm長さの食べやすい大きさに切る。春雨は熱湯に3~4分つけて戻し、よく水洗いをし食べやすい大きさに切る。豚肉は一口大に切る。しいたけは、軸を除いて半分にする。
③しょうがは千切り、赤唐辛子は種を除く。
④フライパンに油を熱し、③を炒める。香りが立ったら、干しエビと豚肉を加えて炒め、肉の色が変わったら、竹の子を加えて炒め合わせ、aと①の干しエビの戻し汁、しいたけを加える。煮立ったらアクを除き、弱めの中火にし、落とし蓋をして、b~7分、煮る。
⑤春雨を加え、さらに4~5分煮て味をなじませる。しょうゆを加え、水と片栗粉を加えて混ぜてとろみをつけて、火を消す。

朝から軒下のたらいに水を入れ、涼を求めて水鉄砲遊びを染しむ孫達の声が聞こえてきそうです。



「富貴天ニ在リ」とは、富貴は天から与えられるもので、人力で自由になるものではないという意味です。



季節の俳画
富貴在天
牡丹
安達照子

海 の街道・六

【重源上人・前】



国宝 重源上人座像(木彫)

文=末兼正純

西暦一一八〇年、平家による南都焼打ちによって、東大寺は大仏殿などのすべての伽藍を焼失し、大仏も溶け崩れた。翌年、俊乗房重源はその再建を遂行し、自ら進んで東大寺大勸進職を引き受ける。その役目は、資金・資材の調達から、大仏の鑄造、伽藍の建設まで、事業のすべての統括・差配である。

四年後の九月、大仏は完成し、盛大に開眼供養が行われた。この年、平家は壇ノ浦で滅亡している。

翌春、徳地からさらに佐波川を一〇キロほど遡った深山に、齡六六を数える重源の姿があった。伽藍造立の用材を、ここから伐り出すことに決めたのだった。

柱材を例にとると、長さ三〇メートル、直径一・七メートルのものが一五〇本以上あった。これらを佐波川を流して下り、海の街道を曳航して和泉に到り、奈良までの陸路を牛に牽かせて運ぼうというのである。

森を拓き、岩を削り、谷を埋め、橋を架け、林道工事は二〇キロに及んだ。川では堰を作り、佐波川関水と呼ばれるバイパスを一一ハカ所作ったといわれる。

また、当時の佐波川は新幹線の辺りで急角度で曲がって中関港に注いでいたが、四〇メートルの棟木を流すのに不都合と、今のよう大海湾へまっすぐ流れるよう、一〇キロほど川を作り替えたという。信じ難い話だが、東大寺造立供養記にそう記されている。

出会いの彫刻



文＝中島 幹夫
新制作協会 会員
彫刻家

人にはさまざまな出会いが待っている。人との出会い、自然との出会いの中から、新しい世界が生まれて来る。

私の住まいは、大津島北端の近江にあり、横島と丸山の間から見える海は美しい。元禄八年（二六九三年）暴風で遭難した島原藩の人達を葬った七人墓の近くである。

アトリエ(仕事場)は、三ツ石にある。

三・五キロの道を四五分かけて通っている。三太郎の祠(ホコリ)近くを通過して島の東側の道に出ると東側は海、西側は昔の石切場が多く、大阪城築城に際して九八個の切石を出して運んだという記録が残っている。

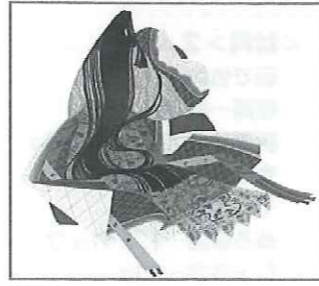
元和六年（一六二〇年）から一〇年間のことであるが、手で刻んだ跡が残っている。今と比べると大変な作業であったろう。

毎日、海と島を眺めていると、海にはさまざまな顔があり、未知の世界だ。

そのような存在をテーマとして、彫刻で何が表現できるか：私の作品では、ガラスは水を、石は海や島を表現している。

そんな宇宙を形に表すことを一生の仕事にしたい。

知っちょるかね



「お姫様はおった？」

文＝松本 千恵子

ひめがた(姫方?)ちゅう所を、知っちょるうか。

馬島の黒矢大明神に向う道の途中の、ある場所をそう呼ぶんじやがね。昔からお姫様が住んじよった所じやから、そう呼ぶと伝えられちよる所なんよ。

お姫様が居ったちゅうても、島の長い歴史のどのあたりに居ったんか、どこのお姫様じやったんかなど、伝わっ

ちよる事は少うてね。「居った事は本当らしい。うちの親戚の山に、屋敷跡が残っちよったと聞いた」という人や、

「身分の高いお姫様じやったから、住んじよる事が島の者にもわからんように、柳ヶ浦からも馬島からも離れた所に、ひっそり住んじよったと聞いたよ」という人などもあるんじやけど、その

お姫様は、じゃあどこから来たんか、どうした訳があ

って、こんな島で人目を忍んで、生きんにやあいけんかったんか。例えば、平家の落人伝説の残るこの島のこと、平家のお姫様が落ち延びて、追手から隠れ住んだんじやろうとか、病気で隔離されちよったんじやろうとか、説も様々でね。

また言う人毎に、場所が微妙に違う屋敷跡など、憶測混じりの話ばかりで、憶は深まるばかりなんよ。

それでも、この小さな島で、きつと美しいお姫様が、いつの時代にか隠れ住んだらしいという事は、島の歴史の徒花(あだばな)のようでもあり、ちよつとワクワクする伝説なんよね。

●平成25年度 大津島地区 年間予定表●

※日程は都合により変更になることがあります。

日 程	
7月12日(金)	老人大 学
7月20日(土)	刈尾海水浴場海びらき
8月18日(日)	大津島小中学校 親子ふれあい作業
8月23日(金)	明日を拓く島づくりミーティング
8月25日(日)	山口県総合防災訓練
9月14日(土)	第22回大運動会
9月22日(日)	敬 老 会
9月下旬	須金老人クラブ交流会
10月15日(火)	大津島中学校・ヘルメイト料理教室
10月18日(金)	大津島小中学校 ふれあい遠足
11月2日(土)	第28回大津島文化祭
11月28日(木)	人権教育・啓発講座
12月1日(日)	第24回大津島ポテトマラソン
2月11日(日)	建国記念の日奉祝行事

～事務局からのお知らせ～

大津島地区社会福祉協議会よりお礼
平成25年度善意銀行へのご寄付について

- 預託者 石丸 昌也 様
亡父 石丸 適 様の香典返しとして
金20万円(市社協 100,000円 大津島社協 100,000円)
- 預託者 河島 百合子 様
亡夫 河島 信幸 様の香典返しとして
金10万円(市社協 20,000円 大津島社協 80,000円)

ありがとうございました。

平成25年度 がん検診のご案内

対象者の方には、がん検診受診券をお送りしています。今年度から、胸部レントゲン車の島内巡回はありませんが、大津島診療所で肺がん・結核検診が受診可能になりました。検診のご予約は、大津島診療所 85-2200 検診等の問合せは、健康増進課 22-8553

移動図書館<やまびこ号 Jr.>

- | | |
|----------------------|---------|
| 7月20日(土) | 8月9日(金) |
| ●瀬戸浜自治会館 10:40~10:50 | |
| ●大津島郵便局前 11:10~11:30 | |
| ●馬島巡航待合所 13:00~13:30 | |
| ●刈尾巡航待合所 13:50~14:10 | |



編集後記

みなさん、こんにちは。大津島支所の神谷です。今年4月に潮田所長の後を受けて着任しました。大津島には、小学生の頃、父に連れられてよく釣りに来て、「かなこぎ」の恐ろしさも学びました。皆さんが元気に、安心して暮らせるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくおねがいします。

◆発行
第232号—平成25年7月1日—大津島地区コミュニティ推進協議会
事務局 大津島支所 周南市大字大津島1361-4 TEL 0834(85)2001

次回発行日
平成25年9月1日—第233号

小麦(ニシノカオリ)の収穫を行いました。

6月に入り、今年度の小麦の収穫が始まりました。梅雨に入っても、晴天が続いたため、連日作業する事ができました。今年度は、昨年より作付面積を増やしたこともあり、収穫量も2俵(120キロ)程度が見込まれています。収穫された小麦は、8月23日に、山口県知事が来島された際に、うどんとして食べていただく予定です。

今後は、12月1日に行われる「第24回 大津島ポテトマラソン」参加賞のさつまいもの植え付けを行います。今年度は、100%大津島産のさつまいもを使って大会が開催できるよう、頑張ります。

大友 翔太

ひろしのつぶやき



【本浦木原神社境内 カ石】

文＝屋野 廣志

本浦垣の内農園

刈尾と本浦の神社の境内に、カ石なる物がある。刈尾は大小三個あるが、元氣な若者ならば、動かす事が出来ると思う。しかし、本浦のカ石は大きく、果たしてこの石を動かした若者がいたのかと思ふ。古老達の前で世代を変えながら、優秀を競った光景が目につく。大津島には、この様に地域の自慢の物が集まる。

人の力が全ての頃、若者の力量は地域の宝物であった。祭り、盆葬祭など、全て若者の行事と定められていた様だ。その地区に不幸があれば、若者は集い、茶毘の支度、棺桶造り、古老達は、「板は削るな」「面は取るな」「寸法は何尺、深さ何尺」と口うるさく教える。酒を呑み、夜中の火屋の見廻りをし、翌朝焼

け落ちるのを見届け、骨を拾うことが出来る様にして、家族に渡す。昭和五二年頃に、細折に火葬場が出来て、若者の義務も軽減された。私がPTAの役員の頃に聞いた話だが、その人は大正八年卒業生というから、古い話だ。当時小学校高学年児童が、都濃郡内体育競技会に出場した。早朝より山船に選手三名と先生を乗せ、若者数名で二丁櫓(伝馬船)を立て、エッサエッサの掛け声で、徳山に渡し参加させた。

勇壮な若者の姿が想像させられる。地区では若者は特に大事にされ、少々の勇み足は多めに許されていた。「夜ばいに行き、朝食まで頂いて帰ってきた。」など自慢話を聞く事が出来た。

大津島の最新情報 更新中!!

http://i-8996-ozsima.jugem.jp/

